

2026年度

# 学士課程教育 履修の手引



OKAYAMA  
UNIVERSITY



Okayama の「O」 University の「U」をデザインのモチーフにしています。全体のフォルムは常に世界に向かって開かれる「知の扉」を表現しており、岡山から「知のコミュニケーション」が始まってゆく様をイメージしています。

ブルーの色調は、岡山大学の叡智を表現するとともに、「晴れの国」の青空を象徴しています。

2012年4月に、コミュニケーションシンボルとして制定されました。

# はじめに

この「履修の手引」には、岡山大学に入学された皆さんが、授業科目を履修する上で必要な情報が記載されています。

大学では、高校時代とは違い、入学した当初から自分自身で考え、選び、行動することが求められます。大学で学ぶということは、自ら主体的に学ぶ態度、習慣をしっかりと身につけていくことです。

例えば、授業時間割でみると、高校ではあらかじめ時間割のほとんどが決められ、選択の余地はあまりなかったと思いますが、大学は、多くの授業科目の中から、一定のルールにのっとって自分の勉強したい科目を調べ、選び、届け出、確認するといった作業を自分の意思で責任を持って行わなければなりません。

岡山大学では、学部・学科・専攻ごとに「進級・卒業に必要な単位数」が定められています。この「学士課程教育 履修の手引」及び学部の「学生便覧」等を熟読した上に、各授業科目の内容が掲載された「シラバス」を活用して、納得のいく学修計画を立ててください。

※「学士課程」とは、定める修業年数を満たし、卒業要件となっている単位を修得すると学士の学位が取得できる課程のことです。

## 掲示・メールの確認

学生の皆さんへの連絡は、基本的に掲示・メールによって行います。  
全学共通科目・英語科目・全学交流科目に関する掲示は、一般教育棟A棟1階掲示板により行いますので、確認してください。専門教育科目に関する掲示場所等は、学生便覧等に記載がありますので、確認してください。

また、大学からのメールは重要事項が多く含まれますので、受信メールは必ず確認するようにしてください。

「シラバス」及び「履修の手引・授業時間表」は、岡山大学のWEBサイトから閲覧できます。

岡山大学WEBサイト (<https://www.okayama-u.ac.jp/>)  
→ 「在学生・保護者の方」 → 「シラバス」  
→ 「履修・成績等」 → 「学士課程教育履修の手引」

# もくじ

はじめに	1
------	---

## 巻 頭

主要なスケジュール	4
2026（令和8）年度 岡山大学授業日程計画	5

1. 岡山大学の学士課程教育	
1-1 岡山大学のミッション	6
1-2 岡山大学の学士課程教育における方針	6
1-3 岡山大学の学士課程教育プログラム	9
2. 基本情報	
2-1 学生番号	11
2-2 学年暦	11
2-3 学年と学期	12
2-4 授業日程と授業時限	12
2-5 単位の基準	13
2-6 成績の評価	13
2-7 履修登録単位数の上限（CAP制）について	15
2-8 特別な単位の認定	15
3. 学士課程教育の学び	
3-1 全学共通科目	16
3-2 英語科目	20
3-3 専門教育科目	22
4. 授業の履修手続き	
4-1 時間割作成に必要な資料	23
4-2 時間割を作成する	24
4-3 履修登録の方法	24
4-4 全学共通科目（知の探研除く）・全学交流科目の抽選について	25
4-5 履修登録のルール	26
(1) 全学共通科目・英語科目・全学交流科目・教養教育科目授業時間表	
(2) 全学部共通の注意事項	
(3) 各科目の履修上のルール	
①全学共通科目・全学交流科目の内、英語で行われる科目	
②英語科目	
4-6 必修科目の再履修	27
5. 受講上の注意	
5-1 教室	29
5-2 授業に関する連絡	29
5-3 教室変更	29
5-4 教科書	29
5-5 休講・補講	29
5-6 公欠・準公欠・その他の欠席	29
5-7 レポートの提出	30
5-8 授業評価アンケート	31
5-9 授業が分からない、授業について質問があるとき	32
5-10 履修について質問があるとき	32
学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて	33

# もくじ

---

## 6. 試験及び成績の評価

6-1	受験心得、不正行為	35
6-2	受験延期願（追試験）	35
6-3	成績の通知	36
6-4	成績評価に関する質問・疑問について	36

## 7. 正課外教育

7-1	大学内で自主的に学習したいとき	38
7-2	外国語をもっと学習したいとき	38

## 8. 特別なコース

8-1	グローバル人材育成特別コース（Gコース）	40
8-2	数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度	41
8-3	岡山大学教育推進機構副専攻コース（日本語教育コース）	41

## 巻末資料

外部検定試験による単位の認定基準

欠席届

学内案内図・教室配置図

津島キャンパス

鹿田キャンパス

# 主要なスケジュール

2026年度の大学の行事と入学当初の大事なスケジュールを示しています。よく確認してください。

年月日	学年暦	行事
3月26日(木)～4月4日(土)		全学共通科目・全学交流科目に関する抽選・クラス分け説明会 ※岡山大学WEBサイトにて、オンデマンド配信
4月1日(水)	学年始め	
4月1日(水)～7日(火)		新入生オリエンテーション ※日時・場所については、【See→「入学案内」13頁】
4月2日(木)	入学式	
4月3日(金)～5(日)		Cambridge English Skills Test (4技能) ※学部学科ごとに、指定の日時・場所にて受検
4月3日(金)～4月中		新入生健康診断 【See→「入学案内」13頁】 ※5月の健診実施期間内も予約は可能ですが、予約枠は限られます。
4月6日(月)		全学共通科目・全学交流科目(第1学期)抽選結果公開 初修外国語クラス分け結果発表 ※4/6 10時～4/7 抽選追加募集
4月8日(水)		第1学期授業開始
4月15日(水)		英語クラス分け結果発表
4月上旬～		第1・2学期、夏季集中 履修登録
5月上旬		全学共通科目・全学交流科目抽選登録(第2学期、夏季集中開講)
5月下旬		全学共通科目・全学交流科目(第2学期、夏季集中開講)抽選結果公開
6月上旬		《第1学期末試験》授業時間内で適宜実施
6月10日(水)		第2学期授業開始
8月上旬		《第2学期末試験》授業時間内で適宜実施
8月11日(火)～9月30日(水)	夏季休業	
9月上旬		全学共通科目・全学交流科目抽選登録(第3・4学期開講)
9月中旬		全学共通科目・全学交流科目(第3・4学期開講)抽選結果公開、追加募集
9月中旬～		第3・4学期、冬季集中・春季集中 履修登録
9月25日(金)	学位記等授与式	
10月1日(木)		第3学期授業開始 秋季入学者入学式
11月中旬		第4学期、春季集中 追加募集
11月下旬		《第3学期末試験》授業時間内で適宜実施
12月4日(金)		第4学期授業開始
12月25日(金)～ 2027年1月4日(月)	冬季休業	
1月15日(金)		共通テスト実施に伴う臨時休講
2月上旬		《第4学期末試験》授業時間内で適宜実施
2月15日(月)～3月31日(水)	春季休業	
3月25日(木)	学位記等授与式	
3月31日(水)	学年終了	

2026(令和8)年度 岡山大学授業日程計画

月	曜日							備 考	月	曜日							備 考	
	日	月	火	水	木	金	土			日	月	火	水	木	金	土		
4 月				1	2	3	4	2日 入学式 8日 第1学期授業開始	10 月					1	2	3	1日 第3学期開始 1日 秋季入学者入学式 12日 スポーツの日	
	5	6	7	8	9	10	11			4	5	6	7	8	9	10		
	12	13	14	15	16	17	18			11	12	13	14	15	16	17		
	19	20	21	22	23	24	25			18	19	20	21	22	23	24		
	26	27	28	29	30			29日 昭和の日		25	26	27	28	29	30	31	10月30日～ 大学祭 11月2日 ※10/30,11/2臨時休業	
5 月						1	2	注:7日 火曜日の授業を行う 注:8日 水曜日の授業を行う	11 月				4	5	6	7	3日 文化の日 注:4日 月曜日の授業を行う 注:19日 月曜日の授業を行う	
	3	4	5	6	7	8	9			8	9	10	11	12	13	14		
	10	11	12	13	14	15	16	3日 憲法記念日		15	16	17	18	19	20	21		
	17	18	19	20	21	22	23	4日 みどりの日		22	23	24	25	26	27	28		
	24	25	26	27	28	29	30	5日 こどもの日		29	30							
31							6日 振替休日											
6 月								10日 第2学期開始 30日 卒業日	12 月								4日 第4学期開始	
	7	8	9	10	11	12	13				6	7	8	9	10	11	12	
	14	15	16	17	18	19	20				13	14	15	16	17	18	19	
	21	22	23	24	25	26	27				20	21	22	23	24	25	26	25日～1月4日 冬季休業
	28	29	30							30日 卒業日	27	28	29	30	31			27日 卒業日
7 月								20日 海の日 注:22日 月曜日の授業を行う	1 月							1	2	1日 元日
	5	6	7	8	9	10	11				3	4	5	6	7	8	9	11日 成人の日
	12	13	14	15	16	17	18				10	11	12	13	14	15	16	注:12日 月曜日の授業を行う 注:13日 金曜日の授業を行う
	19	20	21	22	23	24	25				17	18	19	20	21	22	23	
	26	27	28	29	30	31					24	25	26	27	28	29	30	15日 共通テスト実施に伴う臨時休講 16,17日 大学入学共通テスト
8 月							1	7～9日(予定) オープンキャンパス 11日 山の日	2 月								注:5日 木曜日の授業(試験)を行う	
	2	3	4	5	6	7	8			7	8	9	10	11	12	13	11日 建国記念の日	
	9	10	11	12	13	14	15			14	15	16	17	18	19	20	23日 天皇誕生日	
	16	17	18	19	20	21	22			21	22	23	24	25	26	27	25,26日 一般選抜(前期日程)	
	23	24	25	26	27	28	29			28								
30	31																	
9 月								21日 敬老の日 22日 国民の休日 23日 秋分の日 25日 学位記等授与式	3 月								21日 春分の日	
	6	7	8	9	10	11	12				7	8	9	10	11	12	13	22日 振替休日
	13	14	15	16	17	18	19				14	15	16	17	18	19	20	25日 学位記等授与式
	20	21	22	23	24	25	26				21	22	23	24	25	26	27	
	27	28	29	30							28	29	30	31				
第1学期計	8	8	8	8	8			授業週数(含試験)	第3学期計	8	8	8	8	8			授業週数(含試験)	
第2学期計	8	8	8	8	8				第4学期計	8	8	8	8	8				

第1学期 4月1日～6月9日

第2学期 6月10日～8月10日

第3学期 10月1日～12月3日

第4学期 12月4日～2月14日

試験期間

休業日及び臨時休講を示す。

他の曜日の授業を行う日を示す。

気象警報等により休講とした場合の補講日を示す。

※補講については、授業担当教員が指定した日に行う。

# 1. 岡山大学の学士課程教育

## 1-1 岡山大学のミッション

### 岡山大学のミッション

“高度な知の創成・創発・継承を通じた、人類社会の持続可能な未来の実現”

岡山地域は、日本初の庶民のための学校「閑谷学校」創建、備中松山藩の財政再建・教育改革など、社会課題に向き合ってきた歴史と、人・物・文化が交わる要所として多様な交流が育まれてきた地理的特色を有しています。

岡山大学は、「研究大学」として、こうした地域の歴史と特色を背景に、多様な知と人材が集い新たな知を生み出す知の交差点となり、高度な知を生み出し(創成)、分野を越えて知を融合し発展させ(創発)、未来を担う人材を育むことでその知を次世代へと受け継いでいきます(継承)。そして、学内から地域、世界へと広がる多様なステークホルダーと共に地球規模の課題解決に取り組むことで、持続可能な未来の実現に貢献します。

## 1-2 岡山大学の学士課程教育における方針

### 1. 教育の基本的目標

岡山大学は、大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

### 2. 養成する人材像

#### 自ら行動を起こすために学び続ける実践者

教育の基本的目標に掲げられた、学生が「主体的に”知の創成”に参画し得る能力」を専門力及び探究力、「学生同士や教職員との密接な対話や議論」をコミュニケーション力、「豊かな人間性」を教養力、「国内外の幅広い分野において中核的に活躍」を実践力としてそれぞれ捉え、新たな価値創造と世界の革新に貢献できる「主体的に変容し続ける先駆者」を養成します。

学士課程では、以下5つの力を持つ人材を養成します。

自ら進んで、課題解決に挑む実践力

自ら問うて、課題を見出す探究力

語り聴くことを通して、差異から学ぶコミュニケーション力

基礎的かつ体系的な専門力

自然や社会に関心を持ち、学びを習慣化する力(教養力)

# 1. 岡山大学の学士課程教育

## 3. 卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

本学は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

### 実践力 自ら進んで、課題解決に挑む実践力

身近な課題と向き合い、解決に向けて行動することができる。

### 探究力 自ら問うて、課題を見出す探究力

対象に疑問を持って、多面的な検討を加えて課題を明らかにすることができる。

### コミュニケーション力 語り聴くことを通して、差異から学ぶコミュニケーション力

出会いの中から違いを理解し自らを高めることができる。

### 専門力 基礎的かつ体系的な専門力

それぞれの専門領域の土台となる知識、技能を生かすことができる。

### 教養力 自然や社会に関心を持ち、学びを習慣化する力

身の周りの事象に好奇心を持ち学び続けることができる。

## 4. 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、全学として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

### 教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

### 教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

#### 共通教育

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

特に学士課程では、自身の考えと異なる人との対話や協働を進めるために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

#### 専門教育

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

特に学士課程では、自身の考え方を豊かにする異分野の知識や技能、自身の専門を築いていく体系的かつ基礎的な専門知識及び技能を、学生同士が切磋琢磨することにより身につけるカリキュラムを提供します。

#### 言語教育

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

特に学士課程では、聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な英語、異文化理解の科目群を通じて言語を学ぶ初修外国語、留学生には日本語、それぞれを学ぶ機会を提供します。加えて、正課のみならず正課外においても言語を学ぶ機会を創出します。

# 1. 岡山大学の学士課程教育

## 教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

- ① 自身の可能性を主体的に広げる教育方法を展開します。  
人が交わる共通教育、知が交わる専門教育、言葉が交わる言語教育を通して他者を理解し、切磋琢磨しながら、自身の可能性を広げる教育方法を実施します。
- ② 総合大学の長をを活かした教育体系を提供します。  
自らの専門を尊重しながらも、様々な専門との出会いにより、共に考え、共に動き、共に創り、共に育む教育体系を全ての課程で展開します。
- ③ 学生の成長に応じた実践的な教育プログラムを提供します。  
学士課程から大学院課程で留学やインターンシップ、プラクティカム等、地域や世界とつながった実社会における学びを提供します。

## 学修評価の考え方

厳格な学修評価を実施します。

授業科目の成績評価については、その基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を評価します。

## 正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

### 5. カリキュラム・マップ

各授業科目に対し、ディグリー・ポリシーに掲げられた「実践力」「探究力」「コミュニケーション力」「専門力」「教養力」の5つの力のうち、どの能力の育成に貢献するかの対応関係を示した図である「カリキュラム・マップ」を策定しています。

カリキュラム・マップは、学生の学修成果を客観的・多元的に可視化するためのシステムである学修ポートフォリオシステムにも活用されています。

### 6. カリキュラム・ツリー

入学から卒業までのカリキュラムの体系性を示し、授業科目の相互の関係性や学修の道筋等を表した図が「カリキュラム・ツリー」です。学部・学科等ごとに、学位を取得するために、どの科目をどのような順番で履修していけばよいか、履修イメージを形成することができます。

また、各学部・学科等における教育方針も策定されています。

所属する学部・学科の教育の方針は、以下の URL から確認してください。

<岡山大学の教育における方針>

<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/education-policies.html>

# 1. 岡山大学の学士課程教育

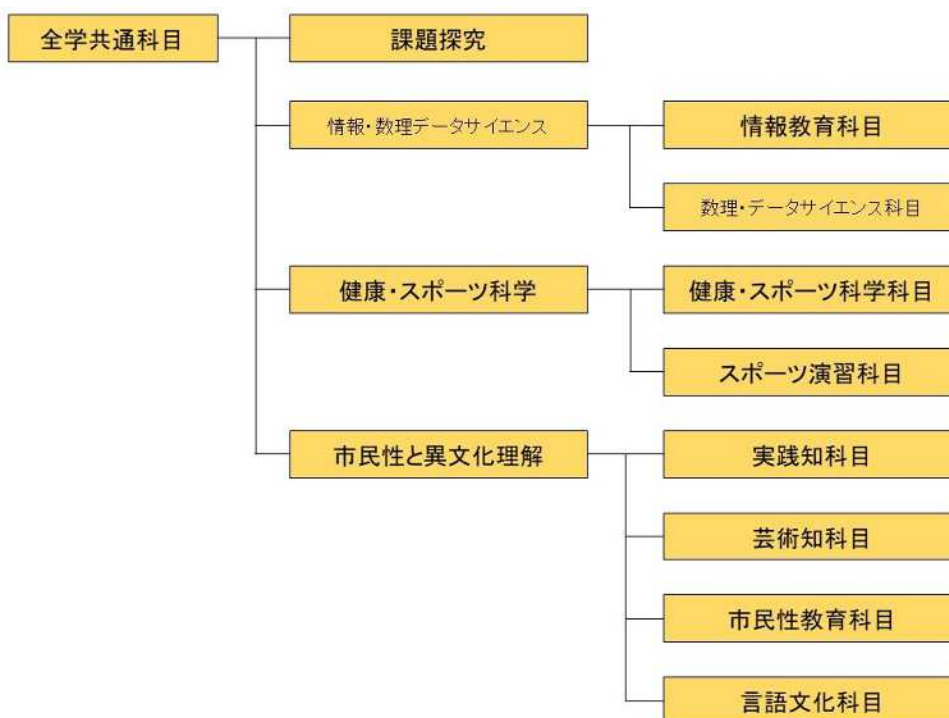
## 1-3 岡山大学の学士課程教育プログラム

### 三つの大きなプログラムー「全学共通科目」と「英語科目」と「専門教育科目」ー

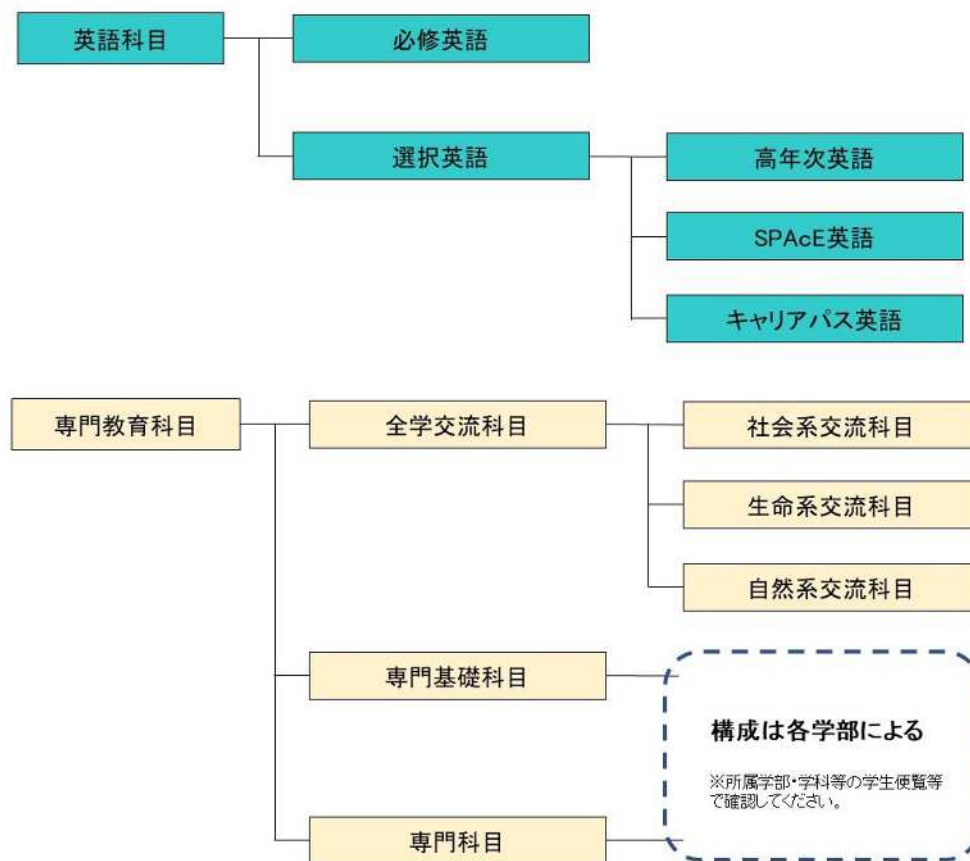
2025年度より、岡山大学の学士課程教育プログラムは、所属する学部の違いを超えた共通の授業内容から成る「全学共通科目」と「英語科目」、それぞれの学部に固有の授業内容から成る「専門教育科目」の三つで構成されており、これらを各年次に配当しています。



また、各科目区分は、以下のとおり構成されています。



# 1. 岡山大学の学士課程教育



## 2. 基本情報

### 2-1 学生番号

学生番号とは学生個人を表す番号で、学生証に8桁で表されています。出席カード、レポート、試験の答案など、重要な書類の提出の際に必要となりますので、学生証は常に携帯し、学生番号も間違いのないように記憶しておいてください。

学生番号の構成は次のとおりです。

#### 【文学部人文学科1番の学生の場合】

学部コード (2桁)	課程コード (1桁)	入学年度 (2桁)	一連番号 (3桁)
0 1	B	2 6	0 0 1

#### 【学部コード】

学 部	学部コード
文学部	01
教育学部	02
法学部	03
経済学部	04

学 部	学部コード
理学部	05
医学部	06
歯学部	07
薬学部	08

学 部 等	学部コード
工学部	09
農学部	11
グローバル・ディスカバリー・プログラム	13

### 2-2 学年暦

岡山大学の一年間は、高校と同じ4月から翌年3月までの年度方式をとっています。

2026年度の行事予定である学年暦や皆さんに関係する大事なスケジュールは4ページの「主要なスケジュール」にあります。

## 2. 基本情報

### 2-3 学年と学期

岡山大学では、1学年を4分割する4学期制を導入しています。多くの授業は、1科目について50分授業を14回行うことを基本としていて、学期ごとに完結し、4年ないし6年にわたる一貫教育を行っています。この4学期制の採用により、短期間の集中的な学習による履修効果の向上及び授業科目数の増加による選択の幅の拡大等を図っています。

2026年度	学 年	4月 1日 ~ 3月31日 (翌年)
	第1学期	4月 1日 ~ 6月 9日
	第2学期	6月10日 ~ 8月10日
	夏季休業	8月11日 ~ 9月30日
	第3学期	10月 1日 ~ 12月 3日
	第4学期	12月 4日 ~ 2月14日 (冬季休業：12月25日~1月4日)
	春季休業	2月15日 ~ 3月31日

※年度により、各学期の開始・終了日は異なります。学期の開始・終了日については、年度毎に公示します。

### 2-4 授業日程と授業時限

岡山大学の授業は、1科目14回が基本です。なお、期末試験を行う場合は15回となります。また、1回の授業時間（1時限）は50分です。時限ごとの授業時刻は次のとおりです。

1時限目	8：40 ~ 9：30
2時限目	9：40 ~ 10：30
3時限目	10：45 ~ 11：35
4時限目	11：45 ~ 12：35
5時限目	13：25 ~ 14：15
6時限目	14：25 ~ 15：15
7時限目	15：30 ~ 16：20
8時限目	16：30 ~ 17：20
9時限目	17：30 ~ 18：20
10時限目	18：30 ~ 19：20

なお、授業科目によっては、時限を通して行うものや週2回開講するもの、集中講義で行うものなどがありますので、注意してください。

## 2. 基本情報

### 2-5 単位の基準

大学での学修は単位制度を基本としています。

1単位は、教員が教室等で授業を行う時間及び学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間の合計で標準45時間を要する教育内容をもって構成されています。

ただし、単位数は、個々の授業の種類や形態によって異なります。

岡山大学の全学共通科目、英語科目及び全学交流科目については、次の基準により1単位が設定されています。なお、「大学の授業による学修時間」には期末試験に要する時間を含みません。

授業の種類・方法	大学の授業による学修時間	授業時間外の学修時間
講義	15時間	30時間
演習	15～30時間	30～15時間
実験	30～45時間	15～0時間
実習	30時間	15時間
実技	30～45時間	15～0時間

岡山大学では通常、上表の「大学の授業における学修時間」において「50分授業、14回履修」を「15時間の学修時間」とみなします。従って、講義科目1単位を修得するためには、1回50分の授業に14回出席し、当該授業に関する自学・自習・レポート作成等を行い、さらに試験等に合格することが必要です。

### 2-6 成績の評価

岡山大学ではGPA制度を導入しています。GPAとは、Grade Point Average（グレード・ポイント・アベレージ）の略で、欧米で一般的に行われている成績評価制度のことです。

GPA制度の成績の表し方とGP（グレード・ポイント）の換算は次のとおりです。

評語	GP	評点	基準等
A+	欄外の GP算 出方法 を参照	90～100点	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
A		80～89点	到達目標を達成し、優秀な成果を収めている。
B		70～79点	到達目標を達成し、良好な成果を収めている。
C		60～69点	到達目標を概ね達成している。
F	0	0～59点	到達目標を達成していない。（単位を授与しない。）

## 2. 基本情報

認定	対象外	付さない	① 入学前の既修得単位及び転学、編入学等の既修得単位について、学部・研究科の判断により、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を授与する場合 ② 他の大学等において履修し修得した授業科目の単位又は大学以外の教育施設等における学修について、学部・研究科の判断により、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし単位を授与する場合で、評点により評価しがたい場合
修了	対象外	付さない	本学の開設する授業科目のうち、授業の特殊性に鑑み、評点により評価しがたいもの、若しくは一定の到達度をもって評価し単位を授与する場合
未修得	対象外	付さない	修了の評語をもって合格の評価とする授業科目で、不合格（単位を授与しない。）とする場合

GP（グレード・ポイント）算出方法

$$GP = (\text{評点} - 55) / 10$$

※ただし、評語「F」（不合格：評点60点未満）のGPは0とします。

また、「認定」、「修了」、「未修得」については、対象外としGPを付しません。

### 1. GPA制度導入の目的

- ①成績不振の学生をいち早く発見し、アカデミック・アドバイザーの教員を中心に適切な指導を行うこと。
- ②GPAを目安にして学生に履修登録科目数の自主規制を促し、計画的な履修を促すこと。
- ③学生に対して修得単位数だけでなく、個々の単位のレベルアップを図るよう喚起すること。

### 2. GPAの算出方法

履修登録した科目ごとにGPに単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割って算出します。

$$GPA = \frac{(\text{履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のGP}) \text{の総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

※小数点第3位は四捨五入します。

#### GPAの実際の計算方法例

科目名	単位数 (a)	評点	評語	GP (b)	a×b
〇〇学概論	1	95	A+	4.0	4.0
〇〇学要説	1	85	A	3.0	3.0
□□学演習Ⅰ	1	55	F	0	0
□□学演習Ⅱ	0.5	70	B	1.5	0.75
△△基礎実験	0.5	90	A+	3.5	1.75
計	4				9.5

## 2. 基本情報

### 3. GPAの対象とならない科目

- ・評点を示さず、認定または修了によって単位を取得できる科目
- ・岡山大学以外で修得した科目を単位として認めたもの

## 2-7 履修登録単位数の上限（CAP制）について

岡山大学では、各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数の1年間または1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めています。

学部・学科等によって条件が異なりますので、所属学部・学科等の学生便覧等を確認してください。

## 2-8 特別な単位の認定

### 1. 入学前の既修得単位の認定

大学・短大等を卒業あるいは中途退学後、新たに本学に入学した場合、既修得単位を認定する制度があります。詳細については、各学部の教務学生担当窓口で確認してください。

### 2. 外部検定試験による単位の認定

Cambridge English Skills Test General、TOEIC、Linguaskill、TOEFL等の外国語技能検定試験のスコアや成績により、英語科目及び言語文化科目の単位認定を申請することができます。単位認定基準は、巻末資料のとおりです。ただし、一部の学部等の学生については、単位認定の申請を行うことができません。

なお、単位認定の可否の確認や申請手続きは、各学部の教務学生担当窓口で行ってください。

### 3. 留学による単位の認定

岡山大学交換留学プログラム（EPOK）など、本学との交流協定に基づき外国の大学に留学した場合などには、留学先大学での修得単位が本学の修得単位として認定されることがあります。詳細については各学部の教務学生担当窓口で確認してください。

### 4. 他の大学・高等専門学校等との単位互換協定に基づく修得単位の認定

本学との単位互換協定に基づき、他大学や高等専門学校専攻科等の授業科目を履修した場合には、他大学等で修得した単位が本学での修得単位として認定されることがあります。

岡山大学では、岡山県内の大学で構成する「大学コンソーシアム岡山」の単位互換協定に参加しています。これらの単位互換制度については、第1・2学期は4月第1週頃、第3・4学期は7月から9月中旬頃に履修生の募集を行います。募集時期等の詳細については、掲示等でお知らせします。

その他の大学等についても、協定に基づき単位を認定するものがあります。詳細については各学部の教務学生担当窓口で確認してください。

認定については、転学・編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとします。

## 3. 学士課程教育の学び

### 3-1 全学共通科目

全学共通科目は所属学部の専門分野の枠を超えて全学部生が共通に求められる汎用的技能の育成を目的としています。

専門教育への単なる入門教育ではなく、本学学生であれば誰もが共通して経験し、幅広い視野や基礎的な知識を涵養するための学びとして、「課題探究」「情報・数理データサイエンス」「健康・スポーツ科学」「市民性と異文化理解」の4つの科目区分を設定しています。

全学共通科目の卒業要件単位は、「知の探研」（3単位）、「情報処理入門1」（1単位）、「数理・データサイエンスの基礎」（1単位）の必修科目を含む合計11単位が標準となっています。

#### 「課題探究」

多様な志向を持つ学生同士で協力しながら、課題を見だし、課題解決に挑む姿勢と能力を獲得することを目的とします。

課題探究として履修する授業科目の「知の探研」は、全学生\*が必修の科目です。科目名に含まれる「探研」には、高校での“探”究活動から大学における“研”究活動に向けた第一歩となる授業科目であるという意味が込められています。知の探研は、学生各々が行う第1学期のオンライン授業と、学生が集まって行うグループ活動を主とする第2または第3学期\*\*の教室授業から成り、これら合わせて3単位を1年次に取得します。

第1学期のオンライン授業では、教室授業に向けて必要となるスキルや態度などについて学びます。教材は「岡山大学 Moodle」で提供され、動画等の電子教材を用いて学生自身で学びを進めます。オンライン授業は、第2または第3学期における教室授業を履修する前提となる内容ですから、必ず履修を終えることが求められています。入学時から「岡山大学 Moodle」を確認し、計画的に履修を進めるようにしてください。

第2学期または第3学期の教室授業では、グループ活動や個人活動、ミニレクチャーなどを通して、課題設定、調査・分析、発表・報告、振り返り等を経験していきます。学部が混在した100人のクラスごとに異なるテーマ（「探研テーマ」と呼びます）が設定されます。この100人のクラスを、専門分野の異なる教員がペアを組んで担当します。ペアとなった2名の教員は、それぞれがもつ専門的な視点から、探研テーマに沿い、かつ、グループ学修に適した題材（「教員テーマ」と呼びます）を提示します。この教員テーマによる活動は、100人のクラスを二つに分けた50人の小クラスにおいて実施されます。

「探研テーマ」を掲げる100人のクラスについては、学生の希望を参考に編成します。第1学期の事前学修を進める中で、あなたがどの「探研テーマ」クラスを希望するかについて調査を行います。Moodle内の指定された期日までに必ず回答するようにしてください。

注) \* GDP 学生を除く。GDP において代替科目が英語で開講されます。

\*\* 学生番号末尾が偶数の学生は第1学期と第2学期を受講します。

学生番号末尾が奇数の学生は第1学期と第3学期を受講します。

#### 「情報・数理データサイエンス」

大学教育における研究や教育をはじめ、社会人として必須である情報リテラシー技術やICT (Information & Communication Technology) 活用能力を修得します。また、今日、情報通信技術の普及により大量のデータが収集・蓄積されていますが、それらは活用されなければ意味をもつ情報とはなりません。このようなデータを対象とする学問分野がデータサイエンスです。数理データサイエンスでは、データの収集・加工・分析に必要なプログラミングスキルや統計的手法、AI や機械学習の初歩、さらに可視化方法を修得します。

##### 1) 情報教育科目

「情報処理入門1（情報機器の操作を含む）」「情報処理入門2（情報機器の操作を含む）」「情報処理入門3（情報機器の操作を含む）」では、情報化社会においてインターネットを有効に活用するための知識、情報セキュリティ被害にあわないためのセキュリティ対応能力、個人情報漏洩防止の

## 3. 学士課程教育の学び

ための知識などの幅広い情報リテラシー能力と正しい情報マナーを身につけることを学びます。

上記の科目は、授業における課題の提供や小テストの実施、事前、事後の学習に授業支援システム“Moodle”を利用します。また、すべて実習を伴い、個人所有のPCを使用します。

情報教育科目のうち、「**情報処理入門1（情報機器の操作を含む）**」は全学必修科目です。この授業科目は、あらかじめ学部（学科・課程）によってクラス分けを行って開講します。指定以外のクラスを履修することはできません。

これらの情報教育科目「**情報処理入門1（情報機器の操作を含む）**」「**情報処理入門2（情報機器の操作を含む）**」「**情報処理入門3（情報機器の操作を含む）**」は教育職員免許状取得に必須の科目であり、最低2科目、2単位が必要になります。

また、情報教育科目を発展した、より高度な技術を学習し、インターネットの安全・安心な活用、情報機器の効率的な活用のための知識を修得する科目もあります。

### 2) 数理・データサイエンス科目

数理・データサイエンス科目のうち、「**数理・データサイエンスの基礎**」は、現代の基礎教養として欠かせない情報学・統計学・数理科学の3つを体系的に学ぶためのものであり、授業では、データサイエンスの基盤となる統計および数理の基礎と、データサイエンスの応用事例を修得し、さらに機械学習の概念を学んで、データサイエンスの果たす役割を概観します。この科目に関連した「**数理・データサイエンスの基礎演習A**」では実際にソフトウェアを利用し基礎で学んだ概念を学びます。また、「**データ表現とアルゴリズム**」ではデータサイエンスに必要な数理的な知識、アルゴリズムの基礎知識についてソフトウェアを利用しながら学びます。

さらに「**統計学の基礎**」と「**データ分析の基礎**」が開講されており統計学の基礎を学びます。また、「**数理という道具を手に入れよう**」では、数学がどのように有用な道具になりうるかを体験的に学びます。

数理・データサイエンス科目のうち、「**数理・データサイエンスの基礎**」は全学部の必修科目で、あらかじめ学部（学科・課程）によってクラス分けを行って開講します。指定以外のクラスを履修することはできません。

なお、数理・データサイエンス AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル及び応用基礎レベル）については、41頁に記載しています。

## 「健康・スポーツ科学」

生涯にわたる健康づくりとスポーツ実践力の獲得を目的とします。

### 1) 健康・スポーツ科学科目

「健康・スポーツ科学」は抽選があり、第1～第4学期に指定された時限で開講します。本授業は教育職員免許状取得のために必要な科目です。

「健康・スポーツ科学C」は抽選がなく、通年で月1回、水曜日10、11限に開講するオムニバス形式の授業です。具体的な開講日はシラバスで確認してください。本授業は教育職員免許状取得に関係しません。

### 2) スポーツ演習科目

「**するスポーツ演習**」は、通常時間帯のスポーツ実技に加えて、各自がMoodleを活用した学びから運動プログラムを作成し、通常時間帯以外においても運動を実践する授業です。本授業は教育職員免許状取得のために必要な科目です。

「**みるスポーツ演習**」は、みるスポーツに関わる調査研究テーマを履修者が設定し、テーマに基づきグループを編成し、調査計画を立案し、実際に調査に出かけ、報告書をまとめます。

注) すべての科目（「健康・スポーツ科学」、「健康・スポーツ科学C」、「するスポーツ演習」、「みるスポーツ演習」）について、単位を修得できるのは、それぞれの科目につき1人1回までです。

### 3. 学士課程教育の学び

#### 「市民性と異文化理解」

多様な価値観・多様な文化的背景をもつ人々で構成される現代社会のなかで、他者と協働しつつ自己実現を図るために必要な知識と能力を養います。また、世界の多様な文化について知見を広め、自分たちとは異なる文化圏の人々とも、粘り強く対話を重ねながら相互理解を目指す態度を培います。

##### 1) 実践知科目

地域社会の企業、行政、NPO、まちづくり等が直面する様々な課題を題材とし、その解決に必要な実践知を養うことを目的とします。市民性と異文化理解の基盤の上に、市民的教養に裏付けられた判断力、リーダーシップ、チームワーク、責任感を身に付けるとともに、実社会の多様な関係者と協働しながら、問題発見・解決に必要な技能や態度、素養を培います。

なお、学外の現場で活動を行う科目では、時間割に設定されていない時間帯（土日祝等）に授業を実施する場合や、学外での正課活動に関する保険への加入を履修要件とする場合があります。また、グループワークを重視する科目では、一定人数の受講登録がない場合、閉講となることがあります。現場で受け入れてくださる関係者やチームのメンバーに迷惑がかからないよう、最後まで責任を持って取り組むことが求められます。

##### <科目のタイプ分け>

実践知科目は、

- 1) 社会連携した実践活動の度合い（それに充当する時間数等）
  - 2) 学習環境がグローバルであるか
- の2点を基準としてタイプ分けされています。

全授業時間のうち、現場での実践活動の時間の多い科目を「Aタイプ」、比較的少ない科目を「Bタイプ」とします。さらに、学修環境が外国、または国内であっても外国人コミュニティ等での学修を含むなど、異文化体験の深さに応じて、「G」または「G+」が付されます。これらの組み合わせにより、以下①～⑦のタイプが設定されており、シラバスの「授業形態欄」に明記されています。各タイプの特性を理解したうえで、履修計画を立ててください。

- ◆ シラバスの「授業形態欄」には、以下のいずれかが表示されます。

「該当せず」

- ①Aタイプ（社会連携の実践活動が授業の1/3以上）
- ②Bタイプ（社会連携の実践活動を一部取り入れている）
- ③G+Aタイプ（外国や外国人コミュニティ等で学修するAタイプ）
- ④G Aタイプ（外国人との討論等、異文化に触れつつ学修するAタイプ）
- ⑤G+Bタイプ（外国または外国人コミュニティ等で学修するBタイプ）
- ⑥G Bタイプ（外国人との討論等、異文化に触れつつ学修するBタイプ）
- ⑦Cタイプ（実習・演習として実践的だが社会連携を伴わないもの）

表. タイプ分けの基本

判断基準	記号	解説
社会連携した実践活動の度合い	A	次の3条件を満たすもの。 a) 地域や企業等の現場に出向いて活動すること。 b) その活動時間数が、全授業時間数の1/3以上であること。 c) 成果報告会を開催すること（学外の関係者が参加し、授業自体の評価をすることが望ましい）。
	B	地域や企業等の現場に出向く、または現場の課題を抱える当事者とのディスカッション等の活動を1回以上含むもの。※単に外部講師が講義するだけの授業は対象としない。
学修環境としてのグローバル要素の付加	G <sup>+</sup>	社会連携して学修する現場が外国、または国内の外国人コミュニティであるなど、異文化の環境に深く入って学修する授業。
	G	留学生と日本人学生が協同して学ぶことにより異文化理解を進める授業、海外とのオンライン会議など、多言語で討論が行われる授業等。

## 3. 学士課程教育の学び

### 2) 芸術知科目

優れた芸術作品の能動的な鑑賞やアート創造の現場への参加、さらには実技を通じた芸術体験等を含め、創造性と豊かな感性を養います。また、目と耳で感じる表層的な体験にとどまらず、今日まで受け継がれてきた歴史的・文化的背景を理解することも重視します。そこには膨大な時間と英知・哲学が込められています。こうした学びは、現代を読み解き、生きる糧となるだけでなく、文化を次世代へ継承し発展させることにも繋がります。

芸術を通じて、既存の思考パターンや価値観が通用しない現代社会の諸課題に対処する際に拠りどころとなる、一人ひとりの内在的価値基準や倫理観を培うことができます。

### 3) 市民性教育科目

グローバル化の進展とともに急激に変貌する現代社会の具体的実像に触れ、幅広い視野で社会関係をとらえるために必要な知識を養います。また、価値観の多様化した社会のなかで自己実現を図るための知識・能力を培います。市民性教育科目では、現代社会の諸事象を多角的な視点から考察するために必要な政治・経済・文化・思想・宗教等の分野の基本的知識に加えて、社会人としてキャリアを形成していくために必要な知識や能力を身につけることができます。

これらに加えて以下のような科目群も含まれます。

#### <キャリア教育>

学生生活を充実させるとともに、社会人になるうえで必要な知識・能力を修得します。

#### <アカデミック・ライティング>

自分で論理的に思考したことを書くことで表現するコミュニケーション能力を養います。

#### <日本国憲法>

教育職員免許状取得のための科目で、2単位の取得が必要になります（法学部を除く）。

#### <補習教育>

高等学校教育と大学教育の円滑な接続を図る科目群です。高等学校において数学Ⅲ、物理、生物の未履修者及びこれらの科目の習熟度に不安を感じている方を対象に、「初等数学1」「初等数学2」「初等物理学1」「初等物理学2」「初等生物学1」「初等生物学2」の6科目を**補習教育科目**として開講します。これらの科目は卒業要件単位外の授業科目として取り扱うため、GPA制・上制限の対象とはなりません。

### 4) 言語文化科目

世界の様々な言語の学習を通じて、自分たちとは異なる文化への興味・関心を育み、文化の多様性への理解を深めるとともに、どのような文化的背景をもつ相手とであっても、コミュニケーションを放棄することなく、協力して物事を成し遂げようとする姿勢を培います。

言語文化科目には、英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語等）の学習を通じて「外国語との新たな付き合い方」を学び、世界の多様な文化への理解を深める初修外国語科目、様々な国や地域の文化・社会について学びながら、それぞれの文化圏に特徴的な言語表現・コミュニケーション様式に触れる言語文化入門科目、日本語を母語としない留学生等を対象とした各種日本語科目があります。

#### ・初修外国語科目（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）

##### 1) 初級

ア. 初めて履修する場合は、授業時間表の「履修対象の学部、学科等」欄およびシラバスの指示に基づいて、原則として第1学期から第4学期まで同一クラス、つまり同一科目・担当教員の授業科目（第1学期＝初級1、第2学期＝初級2、第3学期＝初級3、第4学期＝初級4）を履修してください。

なお、1年次生を対象に4月に履修希望調査を行います。第1学期に開講される科目はそれに基づきクラス分けを行いますので、履修を希望する新生は必ず履修希望調査に参加してください。履修希望調査に参加しないと、履修ができない場合があります。【履修希望調査への参加方法等については動画にてオンデマンド配信】

イ. 2年次生以上が「初級」授業の履修を希望する場合には、火曜日又は金曜日に開講される「初級」授業を履修してください。火曜日又は金曜日に開講される科目は事前のクラス分けを行いませんので、直接履修登録をすることができます。

## 3. 学士課程教育の学び

ウ. ドイツ語初級、フランス語初級及び中国語初級では週1回行われる「会話」の授業を、第1学期～第4学期に1科目ずつ開講しています。この授業は基本学習に対する発展的補足学習の意味を持ちますので、それぞれの学期において同じ語種の授業を同時履修する学生、或いは既に履修済みの学生のみが履修可能です。

2) 中級 ※同一科目の繰り返し履修可

1年次生でも、授業担当教員と相談の上、履修することができます。

履修を希望する者は、初回の授業に出席して、担当教員から履修の許可を受けてください。

・言語文化入門科目

言語文化入門科目は抽選科目です。履修希望者は時間割を確認の上、所定の期間内に抽選登録を行ってください。開講科目は次の通りです。

【フランス語圏文化】

「フランス概論（言語と歴史）」

「フランス概論（言語と文化）」

【スペイン語圏文化】

「スペイン語圏の文化と社会（スペイン）」

「スペイン語圏の文化と社会（ラテンアメリカ）」

【ロシア語圏文化】

「演劇から見るロシアの人々（ロシアの社会と演劇）」

「演劇から見るロシアの人々（ロシア演劇を読み解く）」

「物語から見るロシアの人々（ロシアの歴史と物語）」

「物語から見るロシアの人々（ロシアの物語を読み解く）」

【イタリア語圏文化】

「イタリアの社会と言語から日本を考える」

「イタリアの教育と言語から日本を考える」

「イタリアの食文化と言語から日本を考える」

「イタリアの芸術と言語から日本を考える」

・日本語科目

履修について不明な点がある場合は、所属学部の教務学生担当窓口を確認してください。

外国人留学生及び特に必要と認められた学生以外は履修できません。

### 3-2 英語科目

岡山の大学の学士課程で学ぶ英語科目は、英語力の育成はもちろんのこと、大学卒業後も英語学習を継続できるように、自律的に英語を学習する習慣を身につけることを目標にしています。そのために、1・2年次だけでなく、3年次以降も英語を継続して学習できるような設定になっています。また本学の英語教育では、授業外学習や学習環境の充実にも力を入れています。

●英語外部検定試験について

英語力の伸長を測定するため、1年次（4月上旬）に Cambridge English Skills Test General（4技能）を、3年次（時期は別途連絡）に TOEIC L&R テストを実施します。この二つの検定試験を必ず受験してください。特に1年次に受験する Cambridge English Skills Test General のスコアは、必修英語科目のクラス編成に必要です。

●各科目について

1年次第1学期の最初の授業では、「オリエンテーション」を実施する予定です。オリエンテーションでは、本学の英語教育体制についての説明があります。また、学生は自身と英語との今後の関係について考えます。

### 3. 学士課程教育の学び

以下、低年次（1～2年次）と高年次（3年次以降）に学ぶ英語授業に分けて説明します。

#### 1) 低年次に履修する必修英語

○1年次に履修する科目：各2単位、合計4単位履修します。

「**コミュニケーション英語 (S&L)**」：日常生活など一般的な内容からSDGsなどの時事問題等、幅広い内容に関するスピーキング力やリスニング力を養成するクラスです。最終的には、英会話やディスカッションに積極的に参加できるようになることを目指します。授業外学習として English Central を活用します。

「**コミュニケーション英語 (R&W)**」：日常生活など一般的な内容からSDGsなどの時事問題等、幅広い内容に関するリーディング力やライティング力を養成するクラスです。最終的には、英文を読みながらその要点を理解できたり、短い英文エッセイを書いたりすることができるようになることを目指します。授業外学習として多読等を行います。

○2年次に履修する科目：各2単位、合計4単位履修します。

「**アカデミック英語 (プレゼンテーション)**」：アカデミックな内容で、ディスカッションやプレゼンテーションを行うクラスです。グループディスカッション等を通して思索を深化させ、最終的には（クラスのレベルに応じて）4分から10分のプレゼンテーションを行うことを目指します。

「**アカデミック英語 (ライティング)**」：アカデミックな内容で、英文エッセイを書くクラスです。文献やインターネット等を利用して情報を収集し、「イントロダクション・ボディ・コンクルージョン」という形式の整った英文エッセイを作成します。最終的には（クラスのレベルに応じて）500ワードから1000ワードの英文エッセイを書くことを目指します。

#### 2) 高年次に履修する選択英語

○原則として、3年次以降に希望の科目を選んで1単位履修します。

「**高年次英語**」：内容は、アカデミックプレゼンテーション、アカデミックライティング、ビジネス英語、オンラインクラス、TOEIC 対策（演習）、TOEIC 対策（解説）、英会話等、多岐に渡ります。原則として自分の学習したい内容のクラスを自由に選択し、履修できますが、学部学科によっては、履修する時期及び時間帯、また授業内容について指定されているところもあります。

#### 3) 1年次から4あるいは6年次に履修できる選択英語

「**SPAcE 英語**」：グローバル人材育成特別コース生のための特別クラスです。取得した単位は、卒業要件単位には含まれませんが、グローバル人材育成特別コースの修了要件になります。

「**キャリアパス英語**」：留学を目指して TOEFL や IELTS の対策をしたい学生、就職や進学のために TOEIC 対策を希望する学生、また、英語力向上のために英語学習を継続したいと考える学生のための科目です。なお、取得した単位は卒業要件には含まれません。

※同一科目の繰り返し履修可

英語科目の履修スケジュール（例）

	年次・期	科目名
1年次	第1・2学期	コミュニケーション英語 (S&L)
	第3・4学期	コミュニケーション英語 (R&W)
2年次	第1・2学期	アカデミック英語 (プレゼンテーション)
	第3・4学期	アカデミック英語 (ライティング)
3年次～ 6年次	各学部学科の指示 に従ってください。	高年次英語

注：3年次以降に「高年次英語」の他に、専門教育科目として、各学部学科の教員による「英語で学ぶ専門科目」を履修します。詳細は、各学部学科で確認してください。

## 3. 学士課程教育の学び

### 3-3 専門教育科目

#### 1. 全学交流科目

教員の所属学部とは異なる学部の学生を対象に開講され、様々な専門領域を志向する学生が混在して履修することを想定した授業内容になっています。学生は他学部の開講科目を履修し、自身の専攻と異なる学問分野に触れることで、自身の志向する専門領域の学びに活かせるような気づきを得るとともに、各学生の専門の枠組みを超えた幅広い知識の「理解と適用」を目指します。自身が所属する学部開講の科目は履修できませんので注意してください（医学部については学科単位で考えますので、医学部医学科生が医学部保健学科の科目を、医学部保健学科生が医学部医学科の科目を履修することは可能です）。なお、全学交流科目の中に次の3つの科目区分を設定しています。全学交流科目全体の卒業要件単位数は4単位で、各科目区分の卒業要件の内訳は学部学科ごとに決められています。履修学生の所属学部の系（社会系、生命系、自然系）によって開講曜日・時限は決められており、全学交流科目の全科目が抽選科目となっています。

#### 「社会系交流科目」

文学部、教育学部、法学部、経済学部が開講する全学交流科目です。

#### 「生命系交流科目」

医学部医学科、医学部保健学科、歯学部、薬学部が開講する全学交流科目です。

#### 「自然系交流科目」

理学部、工学部、農学部、教育学部（理系）が開講する全学交流科目です。

#### 2. 専門基礎科目・専門科目

専門基礎科目では、自身の専門を積み上げていく上で土台となる知識や技能など、必須の基礎を学びます。専門科目は学部の専門性に基づいた科目で、それぞれの分野に特化した専門的かつ実務的な知識や技能を身に付けます。

また、学士課程4-6年間を通じた英語教育を実施するため、「英語で学ぶ専門科目」を専門教育科目の中に設けています。

※専門基礎科目・専門科目については、所属学部等の「学生便覧」等で詳細を取り扱います。

## 4. 授業の履修手続き

大学の授業を受講するためには、授業を選んで時間割を作成し、履修登録の手続きを行う必要があります。「この授業科目をうけますよ。」という意思表示をする手続きのことです。高校では決められた時間割どおりに学習しますが、大学では、皆さんの意思で、学習したい授業科目を選択できる「選択科目」があり、一定の範囲の自由度があります。もちろん、卒業や資格取得にはこの授業科目の単位が絶対必要という「必修科目」がありますので、注意が必要です。

また、履修に際しては、いろいろなルールがあります。以下の説明をよく読んで、皆さん自身の責任で履修の制度を確認し、学習目的に沿った授業科目を選択してください。履修制度の勘違いや、登録漏れなどによって、進級や卒業ができなかったり、卒業時期が延びたりすることもありますので気をつけてください。

履修登録は、学期毎に、学務情報システムから行います。

### 4-1 時間割作成に必要な資料

授業を選び、時間割を作成するための資料として、次のようなものが用意されています。

- ・『学士課程教育 履修の手引』（本手引）
- ・全学共通科目・英語科目・全学交流科目・教養教育科目『授業時間表』
- ・各学部の『学生便覧』等 ※名称は学部により異なることがあります。
- ・各学部の『授業時間割』 ※名称は学部により異なることがあります。
- ・『授業概要（シラバス）』

第3章で紹介した科目区分によって、参照する資料が異なります。また、時間割も科目区分によって参照する資料が異なります。これらは以下のように分けられています。

科目区分		参照する資料	
全学共通科目	課題探究	○『学士課程教育 履修の手引』 ○全学共通科目・英語科目・全学交流科目・教養教育科目 『授業時間表』	
	情報・数理データサイエンス		
	健康・スポーツ科学		
	市民性と異文化理解		
英語科目	必修英語		
	選択英語		
専門教育科目	全学交流科目		□各学部の『学生便覧』等 □各学部の『授業時間割』
	専門基礎科目		
	専門科目		

皆さんが、大学を卒業するためには、それぞれの所属する学部学科等によって決められている全学共通科目、英語科目及び専門教育科目の卒業要件単位数を満たさなければなりません。卒業要件単位数は、各学部の『学生便覧』等に記載されていますので、よく確認してください。

## 4. 授業の履修手続き

なお、授業概要（シラバス）は、本学WEBサイトから閲覧することができます。

<https://www.okayama-u.ac.jp/>

→「在学生・保護者の方」→「シラバス」

このシラバスは、必要に応じて教員が随時内容を更新します。

シラバスには、授業概要や授業担当教員名の他、ナンバリングコード、授業計画、授業時間外の学習（予習・復習）方法、授業形態、教科書等、成績評価などが記載してあります。シラバスは、皆さんが授業科目を履修する際、準備学習等を進めるための基本となるものです。また、授業の内容を事前に把握できるので、計画的・体系的な授業科目の選択が可能となります。

### ※ナンバリングコード

ナンバリングコードとは各授業科目の分野、対象学生及び授業内容のレベル等を分類し、特定の記号や番号を付すことで教育課程の体系性を明示するコードのことです。

岡山大学のナンバリングコードは、「AREA t TGET x pqr W」の14桁で構成されており、「AREA=分野」「t=授業形態」「TGET=対象学生」「x=レベル」「pqr=授業を識別するための連番」「W=留意事項の有無」の6つのカテゴリーに区別されます。各カテゴリーの詳細については以下 URL をご覧ください。

<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/numbering.html>

## 4-2 時間割を作成する

前述の資料をもとに、学期ごとに受講する予定の授業を選びます。

## 4-3 履修登録の方法

皆さんは、自身で立てた履修計画に基づき、履修しようとする授業科目について、皆さん自身で「履修登録」を行うこととなります。各自のパソコン・スマートフォン等で登録できます。履修登録の方法については、「学務系システム利用の手引き」で確認してください。登録期間は、所属学部で異なりますので、注意してください。

登録時には、入学時に大学から配布された岡大ID及びパスワードが必要です。

## 4. 授業の履修手続き

### 4-4 全学共通科目（知の探研除く）・全学交流科目の抽選について

全学共通科目・全学交流科目では、教育上の効果や円滑な授業運営を図るため、授業内容に応じて履修者数の上限を定め、抽選により授業開始前に履修者を決定します。（一部科目を除く）

なお、科目区分毎に実施方法や留意事項が異なります。詳細は以下の各ページを参照してください。

- ・ 「全学共通科目」「全学交流科目」・・・【See→25 頁】
- ・ 「全学共通科目のうち言語文化科目（初修外国語）」・・・【See→19 頁】

#### 「全学共通科目（知の探研除く）」「全学交流科目」の抽選

- 1) 「全学共通科目（知の探研除く）」「全学交流科目」の抽選登録時期は以下のとおりです。詳細についてはその都度掲示しますので、必ず確認してください。

抽選登録時期

第1学期開講科目：

4月初旬

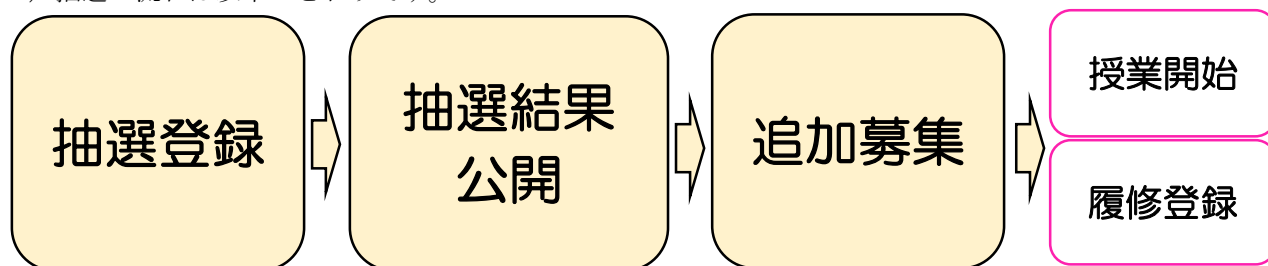
第2学期・夏季集中開講科目：

5月初旬～5月下旬

第3学期・第4学期・冬季集中・春季集中開講科目：

9月上旬（第4学期・春季集中開講科目の追加募集は11月中旬にも実施）

- 2) 抽選の流れは以下のとおりです。



時間割やシラバス等を確認し、履修を希望する抽選対象科目が決まったら、学務情報システムから抽選登録してください。学外からも登録可能です。抽選登録の手順については、掲示や「学務系システム利用の手引き」を参照してください。（※スマートフォンからも登録可能です。）

抽選結果公開後、当選者が定員まで達していない全ての科目について、学務情報システムから**先着順**で追加募集を行います。（授業担当教員へ直接、追加募集実施の有無等の問い合わせはできません。）

抽選に当選した科目は、結果公開の時点で自動的に履修登録されます。また、追加募集で当選した科目は、即時で履修登録されます。

**抽選で当選した科目は、履修削除できません。**（追加募集で登録した科目は、追加募集期間終了時に履修削除できなくなります。）抽選登録を行う時点でシラバスをよく確認し、自身が履修を希望する科目のみを抽選登録するようにしてください。

やむを得ず当選した抽選対象科目を削除する必要がある場合は、所属学部の教務担当窓口にご相談してください。

#### 留意事項

- 1) 「全学共通科目」「全学交流科目」の抽選対象科目は、抽選で当選した学生あるいは追加募集で登録した学生以外は履修できません。（卒業・進級等の事情により、やむを得ず当選していない抽選対象科目の履修が必要な場合は、所属学部の教務担当窓口にご相談してください。）

## 4. 授業の履修手続き

- 2) 必修となっている課題探究科目、英語科目、情報・数理データサイエンス科目が割り当てられている時間帯の科目には抽選登録できません。
- 3) 「全学共通科目」には、一部抽選を行わない科目があります。抽選を行わない科目については、所属学部等が定める、各学期の履修登録期間内に履修登録を行ってください。

### 4-5 履修登録のルール

#### (1) 全学共通科目・英語科目・全学交流科目・教養教育科目授業時間表

全学共通科目・英語科目・全学交流科目で開講される全ての科目について、時間割・履修対象学生・教室・抽選の要否などを記載しています。これらの科目区分では、さまざまな科目が開講されています。各科目によって履修対象や授業形態が異なりますので、授業時間表及びシラバスをよく見て履修登録を行ってください。

#### (2) 全学部共通の注意事項

全学共通科目・英語科目・全学交流科目全体の履修のルールや注意事項について確認しましょう。

##### ① 履修登録・成績評価

授業科目は学期単位で開講され、成績も学期ごとに評価されます。履修登録は学期毎に行い、夏季集中に開講される科目は第1学期から、冬季集中・春季集中に開講される科目は、第3学期と同時から学務情報システムにより登録できます。登録期間等の詳細は掲示にてお知らせします。(所属学部等によって異なります。)

##### ② 履修対象の学部・学科等

履修に際しては、授業時間表の「履修対象の学部、学科等」欄の指定およびシラバスの指示に従ってください。「履修対象学部、学科等」以外の学生は履修できないので注意が必要です。

##### ③ 重複履修の禁止

- (1) 既に単位を修得した授業科目を再度履修することはできません。
- (2) 同じ授業科目名の授業は、担当教員や授業内容が異なっても、重複履修することはできません。
- (3) 同一授業時間に開講される複数の授業科目を重複して登録することはできません。
- (4) 上記(1)、(2)にかかわらず、重複履修できる科目があります。詳細はMoodleに掲載している開講授業科目一覧を確認してください。

##### ④ 外国人留学生の言語文化科目(初修外国語)

外国人留学生は、言語文化科目(初修外国語)の履修にあたって、母語を履修することはできません。

##### ⑤ 夜間主コース授業の受講の禁止

夜間主コース以外の学生は、夜間主コースの授業を履修することはできません。

#### (3) 各科目の履修上のルール

##### ① 「全学共通科目」「全学交流科目」の内、英語で行われる科目

授業で使用する言語が英語の科目については、授業時間表の備考欄に「英語で行われる科目」と記載しています。これらの科目は英語力について受講要件がある場合がありますので、必ずシラバスを確認してください。

## 4. 授業の履修手続き

### ② 英語科目

#### 「コミュニケーション英語(S&L)」「コミュニケーション英語(R&W)」

1年次に開講される必修英語の授業です。入学時のCambridge English Skills Test General(4技能)の結果により、クラス分けを行います。指定されたクラスを変更することはできません。

#### 「アカデミック英語(プレゼンテーション)」「アカデミック英語(ライティング)」

2年次に開講される必修英語の授業です。

指定されたクラスを変更することはできません。ただし、専門教育科目の再履修科目と時間が重複している場合に限り、クラスの変更を認めます。クラス変更の手続きについては、一般教育棟A棟2階学務企画課教育支援グループにて確認してください。

#### 「高年次英語」

3年次以降に開講される選択英語の授業です。

クラス分けは行いませんので、自分で履修したい科目を選んで登録してください。履修登録方法の詳細は別途案内します。

医学部医学科、医学部保健学科、工学部機械システム系、工学部化学・生命系は2年次に開講されます。また、クラスが指定されている場合がありますので、授業時間表を確認してください。

## 4-6 必修科目の再履修

全学共通科目及び英語科目における必修科目の単位を修得できなかった場合、再履修が必要になります。必修科目の再履修は、科目によって登録方法が異なる場合がありますので、以下を参照のうえ、登録を行ってください。全学共通科目の選択科目、全学交流科目は、通常の履修登録手続きに従ってください。

なお、休学等で初年次に以下の科目を履修しておらず、復学後に履修する場合の履修方法は、所属学部等の教務担当に相談してください。

### (1) 知の探研

再履修者は、翌年度第1学期のオンライン授業のMoodleコースに自動的に登録され、学生番号の末尾が偶数の場合は第2学期に、奇数の場合は第3学期に教室授業を受講します。専門教育科目との兼ね合いで、学生番号で振り分けられた教室授業の学期に不都合がある場合は、一般教育棟A棟2階学務企画課教育支援グループ(2番窓口)に相談してください。

### (2) 情報処理入門1(情報機器の操作を含む)

1年次の第4学期に再履修者用クラスを開講しますので、第4学期の履修登録期間中に各自で履修登録を行ってください。または、翌年度の同じ科目を履修することも可能です。その場合は、一般教育棟A棟2階学務企画課教育支援グループ(2番窓口)に相談してください。

### (3) 数理・データサイエンスの基礎

再履修者用クラスはありません。翌年度の同じ科目(自分が所属する学部・学科・系が開講する科目)を各自で履修登録してください。

### (4) コミュニケーション英語(S&L、R&W)、アカデミック英語(プレゼンテーション、ライティング)

単位未修得者用クラス(英語外部検定試験のスコアレベル不問)が開講されていますので、各自で履修登録を行ってください。

または、自身の英語外部検定試験のスコアレベルに合致したクラスをレベル表で確認のうえ、当該クラスの担当教員に許可を得て履修登録申請を行い、申請の翌日以降(土日祝を除く)に各自で履修登録を行ってください。

## 4. 授業の履修手続き

---

レベル表など、詳細はWEBサイトに掲載しています。以下のURLを参照してください。

<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/englishclass.html>

## 5. 受講上の注意

授業を受ける際に知っておかなければならないことを説明します。知らないばかりに授業を受けられなかったり、必要な連絡ができなかったり、学生生活上に必要な支援が得られなかったり、さまざまな不都合が生じることになります。受講上の基本的な注意については、特に確認しておきましょう。

### 5-1 教室

全学共通科目・英語科目・全学交流科目の授業は、主に一般教育棟を使用して開講されますが、学部や情報統括センターの教室を使用する場合がありますので注意してください。

詳しくは、「全学共通科目・英語科目・全学交流科目・教養教育科目授業時間表」及び巻末資料「学内案内図・教室配置図」を参照してください。

### 5-2 授業に関する連絡

全学共通科目・英語科目・全学交流科目関係の授業に関する連絡は、**一般教育棟A棟1階掲示板**に掲示します。定期的に確認してください。

### 5-3 教室変更

授業開始後は、受講者数の増減に伴い、教室を変更することがあります。教室変更については、Moodle及び一般教育棟A棟1階掲示板を必ず確認してください。

### 5-4 教科書

全学共通科目・英語科目・全学交流科目の授業科目ごとのテキスト、教材、参考書および販売店等については、シラバスに記載してありますので、確認の上、各取扱店にて購入してください。

●教科書販売について <https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/kyouyou-oshirase.html>

大学における教科書の利用は、単に授業時間内に利用されるものではありません。1つの授業で伝えるべき内容は大変たくさんあり、限られた授業時間内に伝えることのできる範囲は、氷山の一角にすぎません。

授業では理解できないことや、疑問点を解消するために予習・復習することが、授業を受講するのと同様に大切なことです。自習用のテキストとしても大いに活用してください。

### 5-5 休講・補講

授業を休講する場合及びそれに伴う補講を行う場合は、一般教育棟A棟1階掲示板または授業担当教員からMoodle等で通知します。

### 5-6 公欠・準公欠・その他の欠席

#### (1) 公欠

以下の場合、公欠として認められます。手続きは、所属学部の教務学生担当窓口で行ってください。

- ① 気象警報・交通機関の運休による欠席
- ② 親族が死亡したことによる欠席
- ③ 感染症に罹患したことによる欠席

## 5. 受講上の注意

④弾道ミサイルの落下により、通学が困難となったことによる欠席

【See→33 頁「学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて」】

### (2) 準公欠

以下の場合、**準公欠**として認められます。**手続きは、所属学部の教務学生担当窓口**で行ってください。

- ①裁判員制度に基づき裁判所へ出頭する場合、その他証人、参考人等として裁判所その他官公署へ出頭することによる欠席
- ②骨髄移植のために骨髄液等の提供を行う場合等の欠席
- ③災害ボランティア活動に伴う欠席  
(対象となる災害は公示しますので、掲示又はホームページにより確認してください。)

【See→33 頁「学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて」】

### (3) その他の欠席

公欠や準公欠とならない事由（主に、以下の表に掲げるもの）により授業を欠席する場合は、授業の欠席を届け出る際に、巻末資料に掲載している様式を使用することができます。（ただし所属学部・研究科等により授業欠席の取扱い等が別途に定められている場合は、それに従ってください。）

この欠席届を提出する場合は、記入した後、必要に応じて関連書類を添付の上、**授業担当教員あてに直接提出してください。**

この欠席届の提出にかかわらず、成績評価に当たっての配慮を行うかどうかについては、各授業担当教員の判断に委ねられています。**この欠席届の提出により、授業担当教員による成績評価における配慮を確約するものではありません。**

【欠席届を使用することができる主な授業欠席の事由】

本学の教育施設以外で実施する授業等	教育実習等	教育職員免許状又は保育士資格の取得のために必要な実習をいう。
	介護等の体験	教育職員免許状（小学校及び中学校免許）の取得のために必要な体験をいう。
	インターンシップ実習	本学の開講する授業で、単位認定を行う就業体験をいう。
	学外研修等	学部・研究科等において実施する学外研修及び学外施設見学等をいう。
集中講義		授業実施期間中における集中講義をいう。
病気又はけが		学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて（平成21年9月16日学長裁定）第4に規定する、学生が感染症に罹患した場合等の取扱いによらない病気又はけがをいう。
課外活動		岡山大学公認サークルの活動に伴う大会等への出場をいう。
就職活動		授業実施期間中における就職活動をいう。

## 5-7 レポートの提出

### (1) レポートの作成

「授業科目名、担当教員名、学部、学科、学生番号、氏名」をレポートの表紙にわかりやすく記入してください。レポートが複数枚になる場合は、ホッチキスで留めて提出してください。

## 5. 受講上の注意

### (2) レポート作成上の注意

レポートの中で他人のアイデアを引用する場合は、適切な引用や出典参照をしないと「剽窃（ひょうせつ）行為」とみなされます。「剽窃」とは、「他人のアイデアを自分のものとして使用する行為」で、以下のような具体例があります。

- ・書籍、論文、インターネット上の文章、データ、写真、絵、図、チャート等、書かれたものや、口頭で示された他人の意見や構想を、適切な引用や出典参照をしないで、写して（コピー&ペーストして）自分のものとして、レポート・論文・発表等で使用すること
- ・書籍、論文、インターネット上の文章、データ、写真、絵、図、チャート等、書かれたものや、口頭で示された他人の意見や構想を、適切な引用や出典参照をしないで、少し言い換えたり、まとめたりして、自分のものとして、レポート・論文・発表等で使用すること
- ・レポートや論文、宿題などの成果物を、他人に作成してもらい、自分のものとして使用すること、また、他人ではなく自分が書いたものであっても、ある授業で提出したレポートを他の授業で再度提出することは、学問的倫理に反するのでやめましょう。
- ・学習・教育における生成AIの利用について、生成系AIが作成した文章やプログラム等の出力結果をレポートや論文の執筆、試験にそのまま使うことは、剽窃や不正行為に当たると認定されることがあります。生成系AIの使用については、以下に示す本学のガイドラインを参照してください。

○学習・教育における生成AIの利用について

<https://www.inec.okayama-u.ac.jp/hashtag/ai/>

### (3) レポートの提出期限、提出場所

- ① 提出方法については、授業担当教員からの指示に従ってください。
- ② 指示された提出時間・期限を過ぎた場合、受理できませんので注意してください。
- ③ 提出場所が「一般教育棟」と指示された場合は、一般教育棟A棟2階学務部前の廊下にある「レポートボックス」に提出してください。設置時間は、平日8：30～17：00です。

レポート表紙

/
授業科目名
授業担当教員名
テーマ
学部・学科
学生番号
氏名



## 5-8 授業評価アンケート

授業担当教員が受講学生とともに、授業をより良いものに改善していくことを目的として、授業評価アンケートを実施しています。アンケートは、学期末に実施されますので、ご協力をお願いします。

アンケートの全学共通科目・英語科目・全学交流科目の集計結果については、岡山大学 WEB サイト (<https://www.ipec.okayama-u.ac.jp/limited/jugyohyoka/> ※学内限定公開) で閲覧することができます。

## 5. 受講上の注意

---

### 5-9 授業が分からない、授業について質問があるとき

#### オフィス・アワーを活用する

オフィス・アワーとは、授業に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員が研究室に在室している時間帯のことです。授業担当教員のオフィス・アワーはシラバスで確認することができます。

### 5-10 履修について質問があるとき

全学共通科目、英語科目及び全学交流科目の履修についてわからないことがある場合は、一般教育棟A棟2階の学務企画課教育支援グループ（2番窓口）で相談してください。

また、全学交流科目を除く専門教育科目の履修についてわからないことがある場合は、所属学部等の教務担当に相談してください。

# 5. 受講上の注意

## 学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて《概念図》

### 公欠となる事項

#### 1 気象警報・交通機関の運休

ケース①:  
気象警報のうち、  
(1)暴風警報  
(2)暴風雪警報  
(3)大雪警報(三朝を除く。)  
(4)特別警報  
のいずれかが発表されると…  
ケース②:  
教育担当理事の判断による休講

**大学は休講**(※1)

この場合、課外活動についても全て禁止

後日、補講を実施

※1 「休講」とは… 授業を取りやめること。

ケース③:  
休講の対象とならない気象警報、交通機関の運行休止により通学が困難となった…

届け出ること、**公欠**

授業担当教員が、当該授業に相当する学習を課すものとする。

#### 2 忌引き

学生の親族に不幸が…  
ケース①: 配偶者  
ケース②: 1親等(父母、子)  
ケース③: 2親等(祖父母、兄弟姉妹、孫)

届け出ること、**公欠**

①配偶者 死亡日から(または葬儀等が行われた日を含む)連続7日以内  
②1親等 死亡日から(または葬儀等が行われた日を含む)連続7日以内  
③2親等 死亡日から(または葬儀等が行われた日を含む)連続3日以内

授業担当教員が、当該授業に相当する学習を課すものとする。

#### 3 感染症

学生が、感染症に罹患し、出席停止となったら…  
・インフルエンザ  
・麻疹 など  
※特定の感染症に限る。

届け出ること、**公欠**

医師の発行する病名・罹患期間の記載された診断書(治療証明書)に基づき、罹患期間=公欠期間とする。

授業担当教員が、当該授業に相当する学習を課すものとする。

インフルエンザ、麻疹などの集団発生の場合、感染拡大防止の措置として…

**大学は休業**(※2)

感染症罹患者の発生に伴い、感染症の感染拡大を防止する目的で行う休業措置については、本学の危機管理対策に基づくものとする。

休業となった期間の授業の取扱いは、その都度、学長及び教育担当理事等で協議の上、学長が決定するものとする。

※2 「休業」とは… 授業のみならず、研究活動についても行わないこと。原則として、大学への立ち入りを禁止する。

#### 4 その他特別の事情

ケース①:  
Jアラートが発信され、岡山県内に弾道ミサイルが落下した場合  
(三朝地区の場合は、鳥取県内)

**大学は休講**(※1)

この場合、課外活動についても全て禁止

後日、補講を実施

※1 「休講」とは… 授業を取りやめること。

ケース②:  
休講の対象とならない地域に弾道ミサイルが落下し、学生が通学に利用する交通機関の運行休止等により通学が困難となった場合

届け出ること、**公欠**

授業担当教員が、当該授業に相当する学習を課すものとする。

### 準公欠(※3)となる事項

#### 1 裁判員制度

#### 2 その他証人、参考人等として裁判所その他官公署へ出頭する場合

ケース①:  
辞退せず、裁判員制度に基づき裁判所へ出頭したら…  
ケース②:  
証人や参考人等として、裁判所その他官公署へ出頭したら…

届け出ること、**準公欠**(※3)

①出頭したことの証明書を添付  
②当該用務に従事した期間の証明書を添付

授業担当教員が、当該授業に相当する学習を課すものとする。

#### 3 骨髄移植のための骨髄液提供等

ドナー候補者又はドナーとなり、検査、入院又は諸手続等のために医療機関へ赴く場合は…  
※親族以外に提供する場合に限る。

届け出ること、**準公欠**(※3)

(財)骨髄移植推進財団の発行する証明書を添付

授業担当教員が、当該授業に相当する学習を課すものとする。

#### 4 災害ボランティア活動

災害ボランティア活動に従事する場合は…  
※学期当たり、最大7日間(往復に要する日数を含む。)を限度とする。  
※対象となる災害は、公示する。

事前の申請により、**準公欠**(※3)

①保護者等及び指導教員等の了承を得た上で、事前に、申請書等を提出  
②ボランティア活動終了後、ボランティア活動報告書の提出

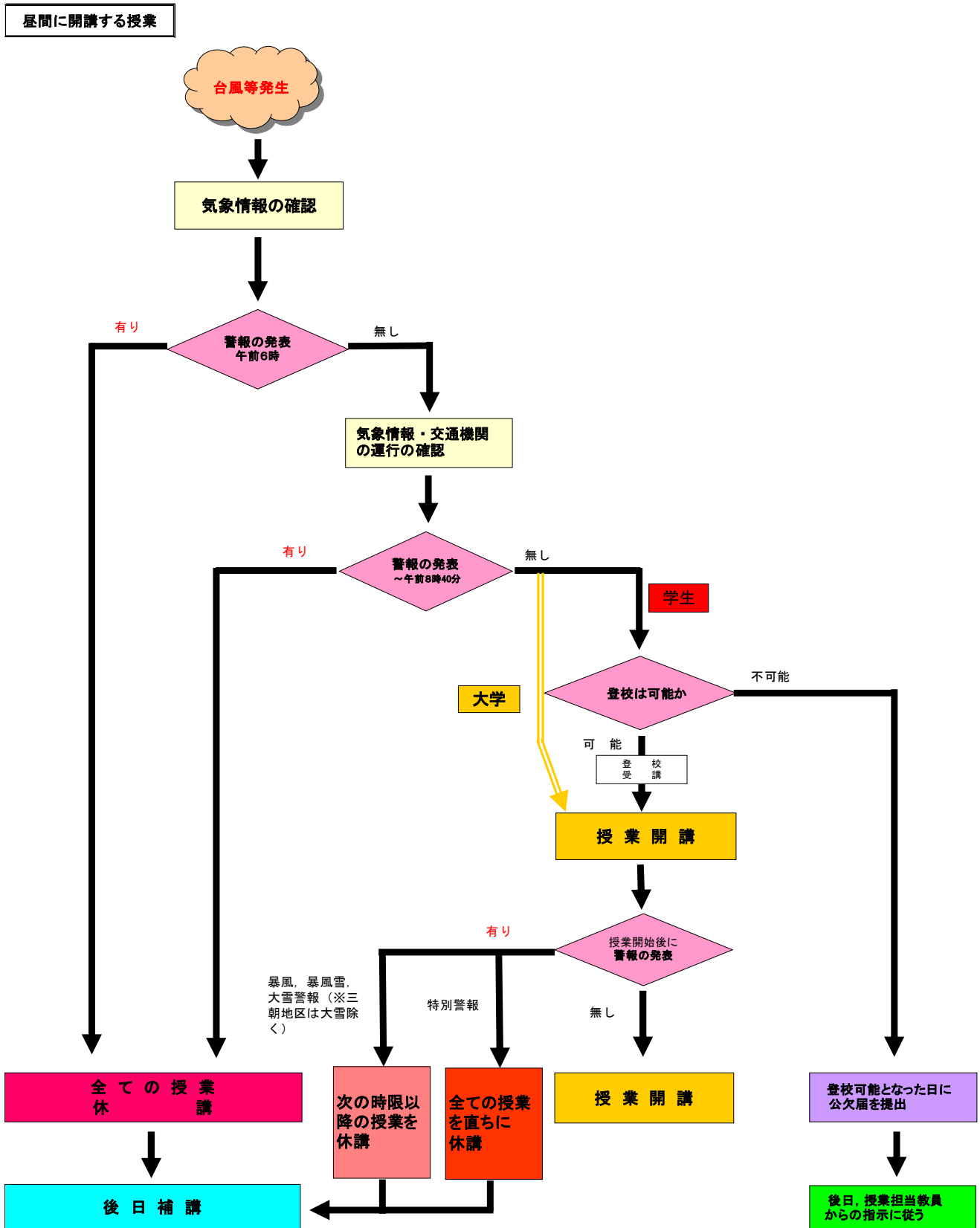
授業担当教員が、当該授業に相当する学習を課すものとする。

※3 「準公欠」とは… 公欠に準じて取り扱う授業欠席のこと。

【注意】 ◆ 上記の各手続きは、所属学部・コース・研究科の教務担当窓口にて行ってください。  
◆ 上記以外の授業欠席については、公欠又は準公欠になりません。

# 5. 受講上の注意

## 暴風時等の対応について(授業の扱い)



## 6. 試験及び成績の評価

### 6-1 受験心得、不正行為

受験にあたっては、次の各事項に留意してください。

- ① 受験する学生は特別の指示がない限り、試験開始時刻の5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
- ② 監督者が指定した座席において受験すること。
- ③ 受験中は必ず学生証を机の上に置くこと。  
ただし、学生証を紛失又は忘れた場合は、監督者に申し出て、その指示に従うこと。
- ④ 受験中、机の上に置くことができるのは、学生証、筆記用具及びその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。また、机の棚板（物入れ）には何も置かないこと。
- ⑤ 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、オーディオプレーヤー等の電子機器類は、必ず電源を切っておくこと。ただし、監督者が受験中に使用を許可する電子機器類は除く。
- ⑥ 解答用紙には、所属学部名、入学年、番号及び氏名等の必要事項を必ず記入すること。
- ⑦ 試験開始後20分を経過するまでは退室できない。
- ⑧ 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
- ⑨ 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡すこと。自己の机の上に置いて退出すると当該授業科目の単位は認定しない。
- ⑩ 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。

なお、**試験において不正行為を行った、不正行為を行おうとした、または不正行為を幫助した者に対しては、学則第58条により厳重な懲戒処分を行う。**

試験における不正行為は次のとおりである。ここで、試験時間中とは、解答の開始から答案の提出までをいう（以下「試験時間中」という。）。

- 1) 代理（替玉）受験をしたり、させたりすること。
- 2) 試験時間中に、使用が許可されていないノート及び参考書等並びに電子機器類その他試験問題の参考となり得る物品を参照すること又は使用すること。
- 3) 試験時間中に、言語、動作又は電子機器類等により他人に教示すること又は教示を受けて解答に利用すること。
- 4) 答案を交換すること。
- 5) 試験時間中に、他の学生の答案をのぞき見すること。
- 6) 試験時間中に、使用が許可されたノート及び参考書等並びに電子機器類を貸借すること。
- 7) 監督者の注意または指示に従わないこと。
- 8) レポートにおいて、剽窃、改ざん及び捏造などをすること。
- 9) その他、試験の公正な実施を妨げる行為をすること。

また、不正行為が判明した場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、**当該学期に履修しているすべての授業科目（学期をまたがって履修する授業科目を含む。）の単位は認定しない。**

### 6-2 受験延期願（追試験）

病気その他やむを得ない事故等により全学共通科目、英語科目及び全学交流科目の定期試験の受験延期を希望する場合は、「受験延期願」（所定様式）に、次の書類等を添付して、一般教育棟A棟2階学務企画課教育支援グループ（2番窓口）へ提出しなければなりません。

- ① 病気の場合は、医師の診断書
- ② その他の場合は、その事故等を証明する証明書

上記願出者で、受験延期を認められた者は、追試験の受験資格を得ることができます。ただし、追試験の実施の有無は、授業担当教員の判断によります。

追試験は当初の試験日から2か月以内（第4学期末試験の場合はその学年末（3月31日）まで）に受験しなければなりません。

## 6. 試験及び成績の評価

### 6-3 成績の通知

学生の皆さんは、学務情報システムにより、成績を確認することができます。  
成績の公開日程は、学期末に掲示及びメールでお知らせします。

**【注意】** 成績を確認するために成績証明書を発行しないでください。  
成績証明書は単位を確認するためのものではありません！

## 確認方法

※岡大ID・パスワードはみなさんの重要な個人情報ですので他人に情報が漏れないよう取扱には十分注意してください。

<岡山大学ホームページ>



また本学では、父母等との連携により、学生へのより適切な修学指導を行うことを目的として、皆さんの成績を父母等へ通知しています。

### 6-4 成績評価に関する質問・疑問について

全学共通科目・英語科目・全学交流科目の成績評価に関する質問や疑問がある場合には、以下のように取り扱います。

- 1) 以下に該当する場合は、「岡山大学全学共通科目、英語科目、専門教育科目における全学交流科目及び教養教育科目に係る成績評価異議申立に関する要項」に基づき、異議を申し立てることができますので、成績開示日から8日以内に、一般教育棟A棟2階学務企画課教育支援グループ（2番窓口）にその旨を申し出てください。（受付は土曜日・祝日を除く。）
  - 一 成績の誤記入等、担当教員の誤りであると思われるもの
  - 二 シラバス又は担当教員の説明等により周知している成績評価の方法から逸脱した評価であると思われるもの
  - 三 その他異議申立を行うにあたり合理的又は客観的な根拠があると思われるもの
- 2) 全学共通科目・英語科目・全学交流科目の成績に関して、以下のような内容は当該授業担当教員に問い合わせることができません。
  - ・救済措置を嘆願するもの。（「進級・卒業に関わるのでなんとかしてほしい」等）
  - ・具体的な根拠を示さず、他の学生と対比して単に不満を訴えるもの。（「友人は80点なのに、なぜ自分は70点なのか」等）

## 6. 試験及び成績の評価

---

- ・具体的な根拠を示さず、その評価になった理由のみを問い合わせるもの。（頑張ったのになぜ60点なのか等）

全学交流科目を除く専門教育科目の成績評価に関する質問や疑問がある場合の取扱いは、所属学部等の教務担当に確認してください。

## 7. 正課外教育

### 7-1 大学内で自主的に学習したいとき

#### (1) 図書館を利用する

図書の貸出、閲覧をはじめ、図書館は皆さんが欲しいと思う情報を収集できる場です。



中央図書館▶

開館日・時間など図書館の詳細については、WEBサイトで確認してください。  
1階には「語学学修コーナー」が設置されています。

●岡山大学附属図書館 WEB サイト <https://www.lib.okayama-u.ac.jp/>

#### (2) 学生ラウンジを利用する

学生ラウンジ 一般教育棟A棟3F・4F▼



利用時間 平日 8:30~19:00

学生ラウンジ 一般教育棟D棟2F・3F▼



利用時間 平日 8:30~19:00

※ 各種行事等のため、利用が制限される場合があります。

### 7-2 外国語をもっと学習したいとき

授業以外で、外国語の学習を自主的に行いたい方のために、以下のような語学習得の場が用意されています。

#### (1) L-café

場所：一般教育棟A棟別館1階

利用時間：平日 10時00分~18時00分

L-caféでは、以下の語学習得の機会を無料で提供しています。岡山大学生であればだれでも利用できます。

- 1) 語学レッスン（英語、ドイツ語、フランス語、韓国語、中国語、その他）
- 2) 留学生と一緒に参加できるイベント（開催情報はL-café内の掲示で案内）
- 3) JCPP（日本語を学びたい留学生と、日本語を教えたい学生がパートナーとなり、相互に学びを深めるプログラム）（登録制）

## 7. 正課外教育

### 4) 留学・語学相談（予約制）

L-café は、異文化に興味のある人や外国語を学習している人が集い、情報交換や語学学修を行う場です。留学生が多く集まり、日本語や日本文化について学ぶ場でもあり、学内で気軽に異文化交流を体験できます。多国籍な空間が広がる L-café は、留学へのファーストステップです。国際交流に興味がある方、外国語を身につけたい方は、L-café で身近な「留学体験」を始めてみましょう。

(L-café WEB サイト)

<https://www.ipec.okayama-u.ac.jp/lcafe/>

### (2) 初修外国語「語学カフェ」

初修外国語においても、ネイティブ留学生との交流や、検定試験対策等の質問ができる「語学カフェ」を開設しています。開設時間・場所は以下のとおりです。気軽に参加してください。

#### 中国語カフェ（中文茶房）

日時：毎週火曜日 16 時 30 分～18 時 00 分

場所：一般教育棟 A 棟別館 1 階 L-café 内

その他、フェイスブックでも情報発信をしています。

<https://www.facebook.com/OkayamaUniversityZhongwenChafang/>

#### フランス語カフェ（カフェ・フランセ）

日時：毎週木曜日、16 時 00 分～17 時 30 分

場所：一般教育棟 A 棟別館 1 階 L-café 内

ブログや Facebook でも情報発信をしています。

<https://yasedo.wixsite.com/cafefrançais>

<https://www.facebook.com/OkayamaUniversiteCafeFrançais>

#### ドイツ語カフェ（シュタムティッシュ）

日時：毎週火曜日、16 時 00 分～18 時 00 分

場所：一般教育棟 C 棟 4 階 教員ラウンジ

Instagram でも情報発信をしています。

<https://www.instagram.com/okadaistammtisch/>

#### 韓国語カフェ（イヤギ）

日時：毎週月曜日、16 時 30 分～18 時 00 分（予定）

場所：一般教育棟 C 棟 4 階 教員ラウンジ

### (3) にほんごカフェ「Sakura」

岡山大学では、様々な言語や文化を持った人たちが学んでいます。にほんごカフェは、留学生・日本人学生が日本語を共通言語として交流する場です。岡山大学に所属する人ならだれでも参加できます。リラックスした雰囲気の中で、いろいろなことを話しながら交流を深めることができます。

場所：一般教育棟 A 棟別館 1 階 L-café 内

日時：学期ごとに異なります。（最新の情報は以下を参照）

[https://www.ipec.okayama-u.ac.jp/language/japanese/page\\_1873/](https://www.ipec.okayama-u.ac.jp/language/japanese/page_1873/)

<https://www.facebook.com/NihongoCafeSakura>

<https://www.instagram.com/nihongocafe.sakura/>

### (4) 多読本等の貸出

一般教育棟 A 棟 1 階 A 1 2 で英語・中国語の多読本等の貸出を行っています。

貸出期間などの詳細は、A 1 2 入口の掲示で確認してください。

※入室には学生証が必要です。

## 8. 特別なコース

卒業要件を越えて学ぶ意欲のある学生のために、以下のとおり特別なコースが用意されています。

### 8-1 グローバル人材育成特別コース（Gコース）

このコースでは、将来グローバル社会のリーダーとして実践的に活躍できる人材を育成します。

コース生になると、それぞれの学部等に所属しながら国際色あふれるコースカリキュラムを履修します。1年次を中心に4技能（読む・聴く・書く・話す）を徹底して鍛える英語力養成プログラムで語学力を高め、SDGsに関連する授業など多彩な科目を備えたグローバルリーダーシップで、世界のさまざまな課題を意識しながらグローバル社会の在り方への理解を深め、創造的思考力やコミュニケーション能力を培います。このコースで学んだ学生たちは、語学研修や異文化体験、海外留学やインターンシップ、国際会議やSDGsに関連する活動など、さまざまな国際的な体験を通して、豊かな国際感覚を磨き、主体的な行動力やチャレンジ精神を高め、異文化理解力や協調性などを育み、グローバル社会で活躍できる人材をめざします。

グローバル人材育成院では、コース生の学修計画に応じて、コースの履修や英語の学習・海外研修・留学への参加など、さまざまな場面でサポートを行っています。

⇒詳細はこちらをご覧ください。

グローバル人材育成特別コース WEB サイト <https://global.okayama-u.ac.jp>

#### 入学～修了までの流れ



### グローバル人材育成特別コース



#### グローバル社会で活躍できる力を育む



#### グローバル人材育成特別コースカリキュラム

英語力養成プログラム  
グローバルリーダーシップ  
海外留学・グローバル実践科目



#### 所属学部カリキュラム

全学共通科目・英語科目・専門教育科目

#### グローバル社会で実践的に活躍できる人材をめざすプログラム

## 8. 特別なコース

### 8-2 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度

数理・データサイエンス・AIはデジタル社会の素養として、あらゆる分野で活躍するために必要な知識・技術となっています。内閣府（政府）の「AI戦略2019」においては、「数理・データサイエンス・AI」を理解して活躍できる人材を育成する必要があるとし、その人材育成のための目標・仕組みとして、各大学・高等専門学校等における数理・データサイエンス・AI教育の取り組みを奨励するための認定制度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」が創設されました。

岡山大学では、この取り組みとして、全学部の必修科目「数理・データサイエンスの基礎」科目で構成されている[リテラシーレベル]、ならびに全学部（学部単位）にて[リテラシーレベル]の次の段階となる（教育プログラム）[応用基礎レベル]の2つの教育プログラムを実施・提供しています。

⇒詳細はこちらをご覧ください。

<https://angels.okayama-u.ac.jp/educator/materials/mdsaiprogr/>

### 8-3 岡山大学教育推進機構副専攻コース（日本語教育コース）

岡山大学教育推進機構副専攻コース（日本語教育コース）では、日本語及び日本語教育に関する知識と実践能力を獲得し、日本語学習を必要とする人への教育に従事できる人材の育成を目指します。

平成22年度より一般の方や大学院生の方も科目等履修生として日本語教育コースを履修することができ、コース修了者に対しては、修了証書が授与されます。

⇒詳細はこちらをご覧ください。

[https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/fuku\\_r7.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/fuku_r7.html)



発行 :

岡山大学教育推進機構

問い合わせ先 :

学務企画課教育支援グループ

(TEL) 086-251-8433

(Email) [dah8433@adm.okayama-u.ac.jp](mailto:dah8433@adm.okayama-u.ac.jp)